

ロクマル[®] マットキット

国土交通大臣認定 壁：PS060WL-0756 床：PS060FL-0772

NEW!

業界初！パテを使わない耐火ブロック工法！
ロクマルマットと耐火ブロックの併用で角穴を簡単施工！



特長1

配管をまとめて省スペース化

配管の束は外周480(約φ150)mm相当まで束ねられるので、省スペース化が図れます。

特長2

優れた施工性

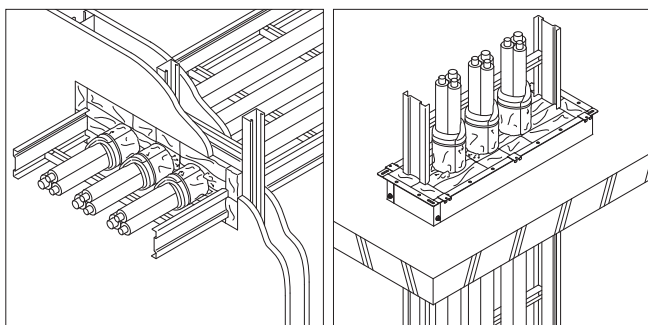
ロクマルマットと耐火ブロックの併用で簡単に施工できるので、施工時間を短縮できます。

特長3

様々な構造・開口に対応可能

開口は最大0.75m²まで対応
床は鋼製スリーブにも対応
(鉄筋コンクリート床に限る)

■ キット構成材料



■ 品番および構成材料

品番	開口面積 (m ²)	標準 開口寸法 (mm)	ロクマル マットL ^{*1} (枚)	隙間用 スティック (本)	結束 バンド (本)	耐火ブロック ^{*2}				補助 充填材 (連)	支持板 ^{*3} (枚)	支持棒	支持板補修用 アルミテープ (枚)	取扱 説明書 (枚)	工法表示 ラベル (枚)
						S	M	L	LL						
MT-016	~0.16	800× 200	3	12	6	6	6	3	3	2		1			
MT-020	~0.20	1000× 200	4	16	8	8	7	5	3	2	1	2	1	1	1
MT-024	~0.24	1200× 200	5	20	10	12	8	5	4	3					

※1 ロクマルマットのサイズは全てLのみです。他のサイズ(S、M)をご入用の方は別途ロクマルマットをお買い求めください。

※2 占積率が20%以上の場合を想定した構成です。占積率が低く、耐火ブロックが不足する場合は、TB-003などをご購入ください。

※3 支持板の寸法は、標準開口寸法と同じになります。

認定条件

構造		RC ^{※1} ・ALC床	壁(片壁除く)
躯体厚(mm)		100以上	60以上
国土交通大臣認定番号		PS060FL-0772	PS060WL-0756
開口面積(m ²)		0.75以下	
最大占積率(%)		38.4	
貫通物条件 ※2 (最大呼び径(外径…mm))	空調衛生設備配管	銅管	1インチ6分(44.5)
		アルミニウム管	1インチ半(38.1)
		硬質ポリ塩化ビニル管(VP、HIVP、HT)	100(114)
		結露防止層付硬質塩化ビニル管(ACドレンパイプ)	50(76)
		被覆付可とう塩化ビニル管(断熱ドレンホース)	25(37)
		可とうポリエチレン管(ドレンホース)	16(22)
		保温材 ^{※3} (mm)	20以下 ^{※4}
	電線管	合成樹脂製可とう電線管	PF/CD54(PF:64.5、CD:60)
		波付硬質合成樹脂管	100(134)
		鋼製電線管	104(113.4)
		金属製可とう電線管	101(110.1)
		硬質塩化ビニル電線管(VE)	100(114)
		ケーブル	
		(一本あたりの導体断面積/mm ²)	1600以下(6600V以下)

※1 銅製スリーブあり、またはなし

※2 ロクマルシートも併用した場合の最大値です。施工条件などの詳細は認定書などをご覧ください。

※3 発泡ポリエチレン系、発泡ポリウレタン系など。

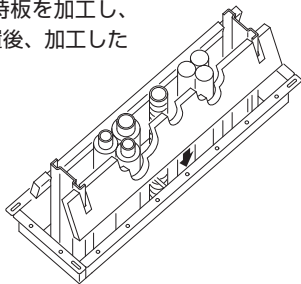
※4 発泡合成ゴム系厚さは38mm以下。その際の銅管径は54mmまで可能です。

施工手順 (床工法は手順1から、壁工法は手順2からとなります)

1

【床工法の場合】

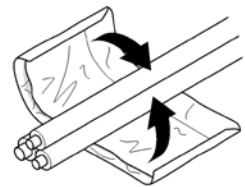
配管の状況に合わせて支持板を加工し、支持棒または支持金具設置後、加工した支持板を落とし込みます。



2

ロクマルマットの内側(ポケット側)を配管に当てるようにして、ポケットの口を上側(壁の場合は手前側)に向けて配管を巻き付けます。ロクマルマット巻き終わりの重なり代が30mm以上となるようにします。

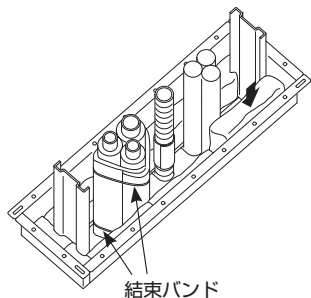
ロクマルマットの下側(壁の場合は奥側)を結束バンドでしばります。



3

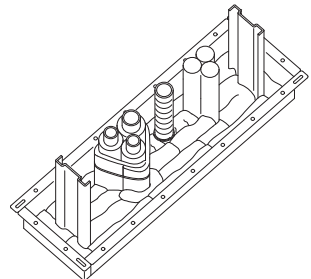
ロクマルマットを所定の位置までスライドさせ、ロクマルマット内側の配管同士の隙間には、隙間用スティックをポケットに入れながら奥まで差し込みます。その後、ロクマルマットの上側(壁の場合は手前側)も下側(壁の場合は奥側)と同様に結束バンドでしばります。

※ロクマルマットの位置は床工法・壁工法で異なりますのでご注意ください。



4

残った開口部とロクマルマットとの隙間の状況に合わせて、耐火ブロックを変形・圧縮しつつ、出来るだけ隙間なく開口内に詰め込みます。耐火ブロックは、軽く引っ張っても抜けない程度に圧縮しながら充填します。さらに、耐火ブロックが入らないような小さな隙間に、補助充填材を差し込みます。最後に、耐火ブロックが脱落したり、隙間を生じたりすることが無いよう、十分密に充填されていることを確認して施工完了です。



●技術に関するお問い合わせは

株式会社古河テクノマテリアル

<http://www.furukawa-ftm.com/bousai/>

防災事業部

〒254-0016 神奈川県平塚市東八幡5丁目1番8号

TEL.(0463)24-9341 FAX.(0463)24-9346

●販売に関するお問い合わせは

古河エレコム株式会社

<http://www.f-elecom.com/>

本社 〒101-0047 東京都千代田区内神田2丁目16番8号
(古河電工神田ビル)

第一電材部 TEL.(03)5297-8778 中部支社 TEL.(052)414-6465 北関東支店 TEL.(028)624-6894

第二電材部 TEL.(03)5297-8696 九州支社 TEL.(092)483-5561 静岡支店 TEL.(054)652-5070

建設部 TEL.(03)5297-8620 東北支社 TEL.(022)267-0771 北陸支店 TEL.(076)431-0863

産業インフラ営業部 TEL.(03)5297-8771 北海道支店 TEL.(011)251-5991 中国支店 TEL.(082)246-0881

関西支社 TEL.(06)6346-4181 長野営業所 TEL.(026)223-1873 沖縄支店 TEL.(098)863-2226